漢文入門

教材のねらい

1 選定の理由

「なぜ漢文を学ぶのか」は、漢文を学ぶ意義・現代とのつながりを理解させる、編集委員の書き下ろしの文章とした。

「訓読の世界」では、短い漢文に慣れさせ、文の構造や訓読法の基礎を理解させるということと、格言としての内容を考えさせるという二つのことをねらいとして教材を選んだ。返り点については、レ点、一二点、上下点などの基本的なものとレ点との組み合わせのみあげ、それ以上の複雑な場合にはあえて触れていない。入門期はどうしても覚えることが多くなってしまうため、漢文に慣れ親しむ段階ということを考慮し、内容を厳選したほうがかえって基礎的事項の理解には有益だと考えたからである。助字としては返読文字と置き字を取り上げ、再読文字も六つ取り上げているが、同様の理由で頻出のものを厳選した。

内容的には伝統的言語文化の実例としてできるだけ人口に膾炙した成語から選ぶことを心がけ、奥深い漢文世界への入門となるよう配慮した。

2 指導のねらい

「訓読の世界」では次のような点を中心に指導することをねらいとした。

(1) 日本に伝わった漢文（白文）が、「訓読」という工夫によって日本の言語文化の根底に位置づけられるようになったことを理解させる。

(2) 熟語の構造を考えることを通して漢文と日本語の構造の違いに気づかせる。

(3) 返り点などの規則を理解して訓読に慣れ、正しい書き下し文を書けるようにさせる。

(4) 短い文の中にも深い意味や教訓が含まれていることに気づかせる。

(5) 漢和辞典の引き方と見方を理解して、自ら漢文を読み進める手段を獲得させる。

3 単元の目標

目標について、別表「単元の目標一覧」をご確認ください。

4 評価規準

学習指導要領との対応等	評価規準例	なぜ漢文を学ぶのか	訓読の世界	漢和辞典の使い方	単元の言語活動１
〔知識・技能〕					
(1)ア	言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。	○	○	○	
(1)ウ	我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、語感を磨き語彙を豊かにしている。		○	○	○
(2)ア	我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。	○	○		
(2)ウ	古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。		○	○	○
(2)エ	時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解している。	○	○	○	
〔思考・判断・表現〕					
B(1)ア	「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。		○		
B(1)オ	「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。	○			○
〔主体的に学習に取り組む態度〕					
	進んで漢文の世界に親しみ、訓読のきまりや熟語の構造を理解し、学習の見通しをもって、漢和辞典の使い方を理解し、熟語の意味「創作ゲーム」を行おうとしている。	○	○	○	○

■言語活動例との関連（【　】は関連する指導要領の言語活動例）
単元の言語活動１：熟語の意味「創作」ゲームを行う。【〔思・判・表〕B(2)オ】